

「二〇一六年度卒業論文題目」

小河 仁 中世伊勢神宮心御柱の違例と穢

川北 奈美 巴形銅器からみた弥生・古墳社会の特質

— 変革期に着目して —

菊池 真希 特殊器台形土器の成立に関する考察

具志堅百合香 近世能登国石動山麓の土地利用にみる山村の成り立ち

佐藤 有紗 権力をめぐる呪詛の実態と変容

— 奈良・平安時代を中心に —

西山 綾乃 奈良三彩の埋納について

— 多彩釉陶器を中心に —

花木ゆき乃 南伊勢地域の中世土師器

— 多気北畠氏遺跡出土遺物を中心に —

福井 裕道 伊勢国における真宗高田派の展開とそのあり方

— 諸勢力との関係性に着目して —

前田 幸恵 近世漁村の多様な生業構造

— 紀州藩長島浦を中心に —

横井 千浩 近世の木炭の生産と流通形態

— 紀州藩領尾鷲組を事例に —

「二〇一六年度修士論文題目」

稲本 紀佳 『正忍記』成立の背景と『正忍記』の伝本研究

丸山 優香 西日本の瓦塔集成

「編集後記」

第一七号をお届けいたします。今年度は卒業生一〇名と修了生二名を送り出すことができそうです。三研究室合同の卒論演習では、専門外の分野に関して十分な指導をおこなえないことに、私自身、忸怩たる思いはあるものの、数度の発表をつうじて論文にまとめ上げていく過程とその成果を見るのは、やはり嬉しいものです。

文系軽視ととられかねない文部科学省の通知が混乱を招いたことは記憶に新しいところですが、昨今の学術研究をめぐる情勢はいつそう厳しさを増しているように感じます。

そうしたなかで、考古学や歴史学を専攻した卒業生・修了生の皆さんが、授業にかぎらず、大学生活で学んだことを今後を活かし、社会で活躍してくれることを望んでやみません。 (お)

三重大史学 第一七号

二〇一七年三月四日発行

編集・発行 三重大学人文学部考古学・日本史研究室

〒五一四―八五〇七

三重県津市栗真町屋町一五七七

TEL: 〇五九―二三二―二二二 (代表)

FAX: 〇五九―二三二―九九九 (共同)

MAIL (山田雄司): yamada@human.nie-u.ac.jp

印刷 伊藤印刷株式会社 (津市大門三二―一三)